

ショールーミング型ECとデータ連携による 伝統工芸品の販売促進



CATALU

カタルスペース

株式会社Catalu JAPAN

附田 一起



解決したい課題

多くの**製造業者**が抱えている

「良い製品を作っているのに適切な販路がない」



卸・小売店
での流通

価格決定権がなく
利益がでない

自社EC
での直販

集客が難しい

ECモール
での販売

安価な商品など
類似商品に
埋もれてしまう

ソリューション

製造業者に消費者とのリアルな接点を提供

リアル店舗とネット購入を掛け合わせ、集客機能を持つ新しいECとして
“**ショールーミング型EC**”



リアル店舗での展示・体験を通じた商品との出会い。それぞれの商品の**ターゲット**にあった**スペース**を選定

特徴1

ネットでの購入

特徴2



モニターでPR

ロゴでブランディング

専用棚で商品を美しく

タブレットで商品説明



LOGO



買い方サポート
/商品説明 (予定)



コンセプト

東京の伝統工芸品を手にとって体験できるショールーム棚を用意し、EC購入へ誘致

- ポイント1： 商品ごとのターゲットにあったスペースを選定
- ポイント2： 思いを伝える記事やTVモニターで商品の良さを存分にPR
- ポイント3： 取得データを活用し、マーケやものづくりに活用



棚へ
展示



ポ
イ
ン
ト
3

取得・解析したデータを
フィードバック。
マーケ、ものづくりに活用





ポイント1：商品ごとのターゲットにあったスペースを選定

客層の異なる複数のスペースを用意



来場者2~3万人/日の
駅直結商業施設

キラリナ吉祥寺



来場者2万人/日の
サービスエリア

Pasar蓮田



ルノアール最大集客
ビジネスマン
が多いカフェ

ルノアール汐留（カフェ）

- ホテル
- オフィスビル
- その他、商業施設など



ポイント2：思いを伝える記事やTVモニターで商品の良さを存分にPR

商品の思いをライターによるインタビューを通じて記事化

折燕ORI-ENシリーズ（急須/茶筒/茶み）【アルチザン：新潟県燕市】



2021.01.12

金剛加工の聖地として知られる新潟県燕市。なかでも高品質な洋食器は古くから愛されています。今回ご紹介するのは、カトラリーやタンブラー、茶器の新ブランド「アルチザン」。シンプルなステンレス食器が多い中、鮮やかなカラーで異彩を放ちます。代表の長澤さんは、燕市出身。「地元金剛加工の可能性を広げたい」とブランドを立ち上げられました。その熱い想いと、職人との出会い、思い届く未来についてお話を伺いました。

55歳で起業。人生をかけたブランド

ブルー、グレー、カッパーレッドの鮮やかな色に、独自の模様。アルチザンの食器の特徴です。これがステンレス製だというと、驚かれる方も多いかと思います。

長澤さんは長く地元燕市の金剛加工メーカーで営業部長をされていました。その中で「燕市を金剛加工の街として知っている人は多いが、まだまだその価値までは伝わっていない。既存の製品や技術に何かをプラスすることにより、もっとその良さを伝えられないだろうか」そう考えるようになりました。

そんな時出会ったのが、富山県高岡市で受け継がれる銅の着色技術。「こんな鮮やかなブルーは見ることがない」その色に心を奪われました。

当時55歳。「残りの人生のうち、仕事をできる時は長くはない。そのすべてをかけてみたい」そんな思いがふつふつと湧いてきた瞬間でした。

惚れ込んだ職人さんと、2年にわたる研究開発

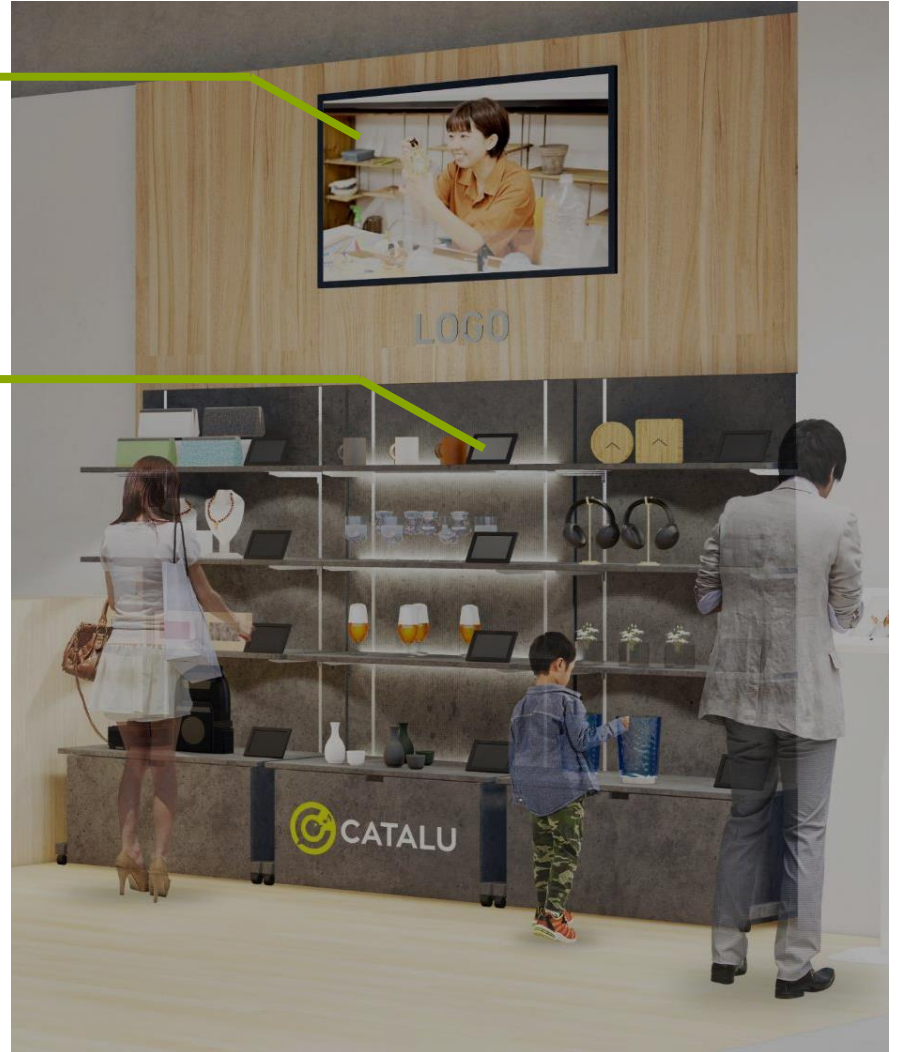
その鮮やかなブルーを作り上げるのは、高岡市の工房ORIさん。しかし、最初はあまり乗り気ではなかったといいます。というのも、ORIさんの技術は銅や真鍮への着色であって、ステンレスのためのものではないからです。

諦めきれない長澤さん。銅や真鍮に着色して作られたクラフト製品、時計、花袋などインテリア雑貨はありますが、キッチンカテゴリーはありません。毎日の生活で使い、手に触れるこの分野にどうしても商品を送り込みたいかった。

何度も何度も高岡に通い、お話ししていくうちに、その熱意にORIさんも首を縦に振り、共同作業が始まりました。

これまで不可能と言われていたステンレスへの着色。技術の完成には2年を要しました。ステンレスに直接色は付けれないので、下地を塗って着色します。首、シルバーなど、作り出したい色に合わせた製品を何度も作り、磨き、模様を作ります。1〜2か月かかる長い工程です。

「早く作って商品を見ていただきたい。届けたい」その一心で取り組んだ研究期間。「出来上がったときは、本当に嬉しかったですね」と振り返ります。





ポイント 3 : 取得データを活用し、マーケやものづくりに活用



データ
取得

